

現在の指定管理の状況について【平成 30～令和 2 年度】
(兵庫県民会館指定管理者候補者選定委員会)

1 運營業務

- ① 開館時間は、午前 9 時～22 時であるが、会議室・ホール等の利用については、朝 8 時 30 分からの準備等による入室を可能にするとともに、駐車場については、ロボットゲートの導入により 24 時間利用を実現するなど、利用者の利便性が確保されている。
- ② 平成 30～31（令和元）年度に行った利用者アンケート調査（以下「利用者アンケート」という。）では、「開館日・開館時間について」及び「施設・サービス内容について」について、5 段階評価のうち、どちらも 4 以上であることから、利用者が概ね満足しているといえる。
- ③ また、県民会館の運營業務ではないが、指定管理者の芸術文化協会がローコンサートや鈴懸の径美術展など各種文化事業を実施することにより、県民会館の賑わいづくりにもつながっている。
- ④ その他、「新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ」を月 1 回開催し、今後の活躍が期待される新進芸術家の発表の場を提供するとともに利用の少ない平日夜間のホールの利用促進を図っている。

2 施設維持管理業務

- ① 利用者アンケートの結果によると、「施設の清潔さについて」は、評価 4 以上を維持し、利用者から高い評価を得ている。
- ② 設備の老朽化がみられる施設であるが、利用者に快適に利用いただけるよう、小修繕を迅速に行うとともに、会議室等の内装工事、ホールの専用プロジェクター設置、会議机やいすの更新等、施設の適切な管理を行っている。
- ③ 電力需給先の入札による選定や照明の LED 化など、運営コストの削減を積極的に図っている。

3 利用状況

- ① 総利用者数は平成 30 年度 50 万人、平成 31（令和元）年度 48 万人と、利用状況は良好である。
- ② 会議室は、平成 30 年度 72%、平成 31(令和元年)度 71%で、高い利用率を達成。令和 2 年度については、新型コロナウイルス感染症対策として、実際の利用人数より広い部屋を予約する傾向があり、加えて今後はオンライン会議の主催会場としての利用が見込まれ、今後の運営については、これらの「利用者ニーズの変化」に対応していくことが求められる。
- ③ ギャラリーについては、平成 30・31（令和元）年度ともに、全体的には約 46%で、うち大展示室は 55%以上、中展示室は 50%程度の利用率で推移。

原田の森ギャラリーが改修工事（H28年度）による閉館の影響で利用率が一時的に上がった(80%程度)が、H30年度以降は落ち着いている。

また、特別展示室は45%程度で、平成26年度の料金値下げにより増えた利用率を保っている一方、小展示室は、35%程度と低迷していることから、今後の利用率改善に向けた工夫が求められる。

- ④ 令和2年度の取組みとしては、ギャラリーの利用率アップに向けて、県からの委託により、県民アートギャラリーリニューアル工事を行う予定。

※12月～1月（予定）

4 収支状況

- ① 利用率の向上に向けた取り組みや、電力需給先の入札による変更、照明のLED化をすすめる等の経費節減により、収支の均衡を保っている。
- ② 平成30・31（令和元）年度とも、年度協定で定めた県への還付金が確実に支払われている。

5 運営体制

経験豊富なOB職員を配置し、人件費を削減しながらも、利用者アンケート「職員・スタッフの対応について」において、平均評価4以上を保つなど、利用者の利便を損なわずに、適切に業務を行っている。

6 総評

利用者アンケートの評価も高く、維持管理状況、運営状況ともに良好である。事業計画に基づいた適切な管理運営が実施されたと認められる。

(参考)

指定管理者候補者選定委員会委員

氏名	主な役職
三木 哲夫	兵庫陶芸美術館館長〔委員長〕
宇田 名保美	中小企業診断士
岡田 知晃	(公財)尼崎市文化振興財団総務部長
藤原 俊平	兵庫県企画県民部知事公室長
宮本 慶子	兵庫県音楽活動推進会議代表